



「3.11 からの出発」

わたしたちの3.11活動のひとつの柱は、盛岡に本拠を置くNPO法人うれし野子ども図書館の分館として、陸前高田に震災半年後に開かれた「ちいさいおうち」への協力でした。当館の人材支援を受け、開設時から専任司書として全力で働いてきた中井佳織さんが、このたび地元の大船渡市立図書館に就職して、新しいスタートを切ることになりました。以下は、彼女の退職のご挨拶と、被災地支援の一環として行なった、仙台でのお話の講習会等の報告です。

「ちいさいおうち」を離れるにあたって 中井佳織

「ちいさいおうち」は、大人の足で20歩もあるけば、館内を一周してしまう小さな図書館。子どもが本を選んでいる時の鼻歌も、「〇〇の本ないかな……」という小さな呟きも、すべて職員が拾えるこの大きさは、子どもたちとの関係を深めて本を繋ぐのに適していました。地域の誰もが深く傷ついた大震災。大事にしたのは、子どもやその家族が安心して心地よく過ごせるように心を配ること、そして、良い本を用意し丁寧に手渡していくことでした。開館から6年が経ち、抱っこされて来館していた子が、今では下の子に図書館の使い方を教え、行事を手伝ってくれる頼もしい存在です。多くの人が子どもたちの幸せを願ってつくられた、「ちいさいおうち」。それぞれの子がお気に入りの本に出会い、読み重ねていく姿を見ることができ、私もとても幸せでした。6年間職員として勤務させていただいた東京子ども図書館、また、さまざまな形で援助してくださった賛助会員をはじめとする皆様に心から感謝申し上げます。

このたび私は、やはり被災した隣市の図書館に勤めることとなりました。これまでの学びをしっかりと生かし励んでまいります。同時に、これからもボランティアとして地域の皆さんと共に、末永く「ちいさいおうち」を支えていきたいと思っております。

小友小学校訪問 (2017年10月23日) 初めて小友小学校を訪問しました。「ブラックさんとブラウンさん」の指遊びに大興奮してくれた1年生、海にちなんだ詩「海とおれ」「うみとわたし」を嬉しそうに聞いてくれた高学年。温かい心の交流を実感した幸せなひと時でした。(内田ふみ子)

仙台での「おはなしの講習会」 2015年に行なった「児童図書館の基本を学ぶ 出張講座キャラバン in 宮城」のフォローアップとして“子ども読書コミュニティプロジェクトみやぎ”主催の「おはなしの講習会」が10月30日、仙台市のエル・ソーラ仙台の大研修室で開かれました。参加者60名。お話を語ったのは、公立図書館の若い職員たち、語りのボランティアを始めた人たちなど、主に初心者の方たち13人。しっかり準備したことがうかがえるよい語りで、そのあとの講評、質疑応答も活発でした。図書館員とボランティアが共に学ぶ機会になったのがよかったとの感想が聞かれるなど、大きな成果が得られた会でした。講師は松岡名誉理事長と筆者。(加藤節子)